

「なろう系」の定義を定める ～なろう小説の分類とよく売れるキーワードから見えるもの～ 大島 隼人(22011057ho@tama.ac.jp)

1. 研究の背景と目的

本研究は、『読者の思う「なろう系」の定義を定める』についての研究を目的とする。近年、TwitterやYoutube、小説家になろうなどの利用者投稿型共有サービスが人気である。これらのサービスが開始から数年経過した。現在では数多の利用者が利用する社会に大きな影響を与えるメディアに成長している。その利用者投稿型共有サービスの中でも「小説家になろう」の「なろう系」と呼ばれるジャンルを題材として進めていく「なろう系」とは、公式が定めた明確な定義ではありませんが、主に利用者投稿型小説サイト「小説家になろう」から誕生した作品のことを読者の間で「なろう系」と呼ばれている。なろう系は、「異世界転生系」、「主人公最強」、「ループ系」、「のんびり系」などの幅広いジャンルがあり、作品名が長いのも特徴の一つと考えられている。しかし、これらの特徴だけでは、「なろう系」を定義することは困難だと考えられる。そのため、年代別の増加率やランキングの人気作品や上記以外のジャンルの共通点から関係を明らかにし、明確な定義を探ることが目的である。

2. 先行研究

本田・伊東は、「小説家になろう」などの、CGMサイトの投稿数が増加するほどコンテンツの多様性が減少して画一化が進むことで、文化的多様性が失われる恐れを危惧している。こうした状況の中で、情報エントロピーとcos類似度の二つの尺度で、累計ランキング上位100位の小説に付与されたキーワードから多様性を調査している。

この先行研究では、累計ランキング上位100位の小説を対象に研究し、

- ① キーワードはファンタジーと恋愛が大きな割合を占めている。
- ② ファンタジー「26%」恋愛「18%」のように約半数が占めている
- ③ ①の小説の多くは構成が似ている(例、異世界に転生して始まる)

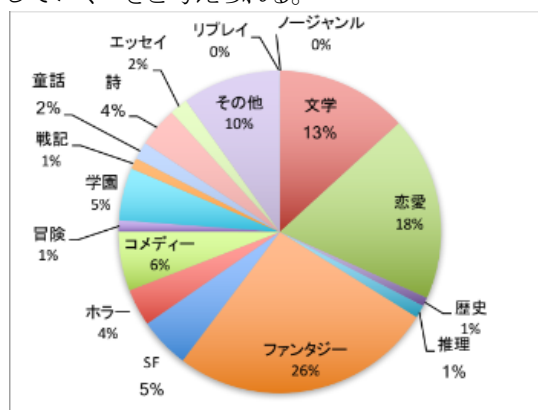
という結果となっている。

以上の調査結果から、文化的多様性は減少し画一化されつつあるということが明らかとなった。このことから、画一化された定義があるとも言え換えることができる。

そのために、本研究での研究課題として

① 画一化された内容又は構成の確認

① が「なろう系」と呼べるものであるか定義として適当なものであるかを調査・分析していくべきと考えられる。



分類したキーワードを見やすいグラフまとめる

3. 研究方法

資料調査

なろう系の書籍化された物やアニメ化されたものを中心に行っていく

鈴木らが行っていた。大項目と個別項目の二段階のカテゴリーを作成していきたい

4. 今後の課題とスケジュール

卒論を完成させる。

5. 参考文献

本田 優也 伊東 栄典

「利用者投稿型小説サイトにおける
キーワードの多様性動向分析」

<https://drive.google.com/file/d/1DKbmuXjGypNxf3DMvRmAEIWB8SNiICBv/view>, 2017, (参照2023-1-17)

